

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ 保護者との連携については、時間をかけて信頼を築くことが、とても大切だと思いました。講師の体験談は、とても参考になりました。一つの行動には、必ずその人なりの理由があり、先入観にとらわれずにありのままを受け入れることは、日常生活においても大切だと思いました。また、対面ワークを行い、視線・口調・表情・仕草が言葉の内容以上に大切だと思いました。
- ◆ 保護者ははじめから親として生まれてきていません。親である以前に個別性のある一人の人間であることを認め、保護者と子どもに共感し、互いの気持ちを肯定的に捉えることが必要です。子育てをほめることは、保護者の生き方をほめているのと同じことであり、ほめること・認めることで自信をもってもらうためにも、他人の評価は重要であると思います。あるがままを認める広い心で背景を理解し、不安や悩みに寄り添い、子どもの成長を喜ぶ気持ちを共感し合っていきたいです。
- ◆ 自分のコミュニケーションの取り方について考えさせられました。自分が伝えたいことが相手に違う意味で捉えられてしまわないように、思いやりをもって保護者と信頼関係を構築していきたいです。子どもだけではなく保護者の気持ちにも寄り添い、安心して子どもを任せられる放課後児童支援員を目指し、今回学んだバイスティックの7原則を思い出しながら、今後の支援に活かしていきたいと思います。
- ◆ 保護者は親になるために生まれてきたわけではないという言葉が胸に刺さり、保護者の子育ての大変さ、頑張りを認め、気持ちに寄り添う姿勢を忘れてはいけないと思いました。また、視覚からの情報が半分以上を占めていることを知り、アイコンタクトや頷きなどの非言語的コミュニケーションの大切さを感じました。良かれと言った言葉に対し、相手は違う捉え方をしている場合もあるので、伝え方に気をつけ、丁寧な対応を心がけたいです。
- ◆ 実際、保護者とのコミュニケーションは難しいと感じることがあります。子どもの直してほしい行動を伝えるときは、本当に言葉に気を付けて話すので、言いたいことが伝わったか分からないことがあります。バイスティックの7原則（傾聴、受容、共感的理解、自らの感情をコントロール、一人一人違うので先入観をもたない、保護者をジャッジしない、自らの行動を決定するのは保護者自身）を心に刻み、これから保護者と向き合いたいです。